

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
(ふりがな) しおむら きみひろ 潮村 公弘 印			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) しおむら きみひろ 潮村 公弘 印		フェリス女学院大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
コミュニケーション専門ゼミⅡA	FERa-111001-2	11名	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

履修学生は、(a)立案、(b)先行研究調査、(c)質問項目作成、(d)データ収集、(e)統計分析、(f)報告書の作成まで、社会調査・実習で必要とされるほぼすべてのプロセスを経験し、計量的実証研究を行った。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ/領域： 大学生の学校適応感

2. 調査の内容/概要： 大学生の学校適応感の規定因について

3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）： 量的調査、サンプリングの方法は、本学学生をできるだけ代表できるような授業リストの候補から、担当教員の合意が得られた授業で実施。出席者全員からデータを得た。

4. 主な調査項目：「大学環境への適応感尺度（29項目）」、「居場所感尺度（13項目）」、「友人関係尺度（17項目）」、「自尊感情尺度 10項目」、「自己肯定感尺度（11項目）」ほか。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法： 授業時間内に、授業担当教員の合意と協力を得て実施。集合自記式調査。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 2011年7月、本学学内、調査員数1名（協力者2名）

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：
有効回答票数は134。回収率は100%。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法： 相関分析、重回帰分析、パス解析など。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

適応感の下位次元について、「居心地の良さの感覚」は、「本来感」「自己有用感」が高いこと、また「関係回避」が低く「群れ」が高いことによって予測された。「課題・目的的存在」は、「自己肯定感」が高いことによるのみ予測された。「拒絶感の無さ」は、「自尊感情」「本来感」が高いことと、「群れ」が高いことによる予測された。

10. 報告書刊行の予定と概要：

刊行予定なし。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。